



描写とは、書かれていることそのものを指しますが、できごとや人物、場面の様子などをくわしくしたり、分かりやすくしたりするための工夫された描写もたくさんあります。

描写されたものは、作者が見たものや感じたことを文章に書き表したものになります。

ですから、物語を読むときには描写をしつかりとらえて読むこと。そして、その描写から言葉や文章に含まれている**人物の気持ちや場面のふんいき**などを感じ取り、**想像しながら味わう**ことが必要になります。

くわしくしたり、分かりやすくするために工夫された描写にはつぎのようなものがあります。

- 行動を表す言葉
- 様子を表す言葉
- 音をあらわす言葉
- 慣用句
- 色を使った表現
- 比ゆを使った表現



やってみよう

子どものきつねは遊びに行きました。まわたのよつにやわらかい雪の上をかけ回ると、雪の粉がしびきのよつにどどびさって、ちいさいじがすつとつるのです。するととつぜん、後ろで、ドタドタ、ザッと、ものすごい音がして、パン粉のような粉雪が、ふわあつと子ぎつねにおっかぶさってきました。子ぎつねはびっくりして、雪の中に転がるようにして十メートルも向こうへにげました。なんだろうと思ってふり返ってみましたが、何もいませんでした。それはもみのえだから雪がなだれ落ちたのです。まだ、えだとえだの間から、白いきぬ糸のように雪がこぼれていました。

(新美南吉)「てぶくろを買いた」(より)

ここでは、**比ゆを使った表現**に注目しましょう。

比ゆにはいくつか種類がありますが、あるものに例えて「まるで」のように(よつだ)という書き方で、その様子がよく分かるようにしたものです。

お母さんの笑顔は、まるで太陽のようにあたたかい。
バケツの水をひっくり返したような大雨
くんはぼくらの前を風のように走り抜けた。

例えることでその様子がよく分かりますね。みなさんも作文や日記の中でよく使っている表現の工夫ですね。

比ゆを使った表現を次の文に合うよつに、上の文から抜き出して書きましよう。

のよつにやわらかい雪

のよつな粉雪

ちいさいじが

のよつに雪がこぼれて
いました。



描写とは、書かれていることそのものを指しますが、できごとや人物、場面の様子などをくわしくしたり、分かりやすくしたりするための工夫された描写もたくさんあります。

描写されたものは、作者が見たものや感じたことを文章に書き表したものになります。

ですから、物語を読むときには描写をしつかりとらえて読むこと。そして、その描写から言葉や文章に含まれている**人物の気持ちや場面のふんいき**などを感じ取り、**想像しながら味わう**ことが必要になります。

くわしくしたり、分かりやすくするために工夫された描写にはつぎのようなものがあります。

- 行動を表す言葉
- 様子を表す言葉
- 音をあらわす言葉
- 慣用句
- 色を使った表現
- 比ゆを使った表現



やってみよう

子どものきつねは遊びに行きました。まわたのよつにやわらかい雪の上をかけ回ると、雪の粉がしびきのよつにとびちって、ちいさいにじがすつとつるりました。するととつぜん、後ろでドタドタ、ザッと、ものすごい音がして、パン粉のような粉雪が、ふわあつと子ぎつねにおっかぶさつてきました。子ぎつねはびっくりして、雪の中に転がるようにして十メートルも向こうへにげました。なんだろうと思つてふり返つてみましたが、何もいませんでした。それはもみのえだから雪がなだれ落ちたのでした。まだ えだとえだの間から、白いきぬ糸のように雪がこぼれていました。

ここでは、**比ゆを使った表現**に注目しましょう。

比ゆにはいくつか種類がありますが、あるものに例えて「まるで」のように「ようだ」という書き方で、その様子がよく分かるようにしたものです。

お母さんの笑顔は、まるで太陽のようにあたたかい。バケツの水をひっくり返したような大雨

くんはぼくらの前を風のように走り抜けた。

例えることでその様子がよく分かりますね。みなさんも作文や日記の中でよく使っている表現の工夫ですね。

比ゆを使った表現を次の文に合うように、上の文から抜き出して書きましよう。

まわた

のよつにやわらかい雪

パン粉

のよつな粉雪

転がる

のようにして

白いきぬ糸

のように雪がこぼれていました。



ここがポイント

物語を読むときには、**作者が登場人物の気持ち(心情)**や**場面の様子(情景)**に**気をつけて読む**必要があります。作者は書き方(描写)の工夫をしながら**心情や情景**を表していきます。次の「てぶくろを買いに」の文章にもたくさん**工夫**があります。

- ・えたとえだの間から、雪がこぼれていました。
- ・えたとえだの間から、白いきぬ糸のように雪がこぼれていました。線の部分があるほうが、より想像しやすくなりますね。いろいろな表現の工夫を見つげながら読んでいきますよ。

工夫された描写には左のような言葉や表現があります。覚えておくようにしましょう。

やってみよう

子どものきつねは遊びに行きました。まわたのよつにやわらかい雪の上をかけ回ると、雪の粉が、しびきのよつとびびって、さいさいとじがすつとつるのでした。するととつぜん、後ろで、ドタドタ、ザッと、ものすごい音がして、パン粉のような粉雪が、ふわあつと子ぎつねにおっかぶさってきました。子ぎつねはびっくりして、雪の中に転がるようにして十メートルも向こうへにげました。なんだろうと思ってふり返ってみましたが、何もいませんでした。それはもみのえだから雪がなだれ落ちたのでした。まだ えたとえだの間から、白いきぬ糸のように雪がこぼれていました。

(新美南吉)「てぶくろを買いに」(より)

右の文章に線を引いたところは、下の表現の工夫を用いている部分です。そう長くない文章ですが、たくさんの工夫がありますね。



様子を表す言葉

ゆっくり のっそり どっさり きらきらと
ぞくぞくと きゅっと 何度も何度も
みんながよく使う表現ですね。

音をあらわす言葉

ボタン ポチャン ドタドタ
ジュウジュウ カキーン
擬声語といわれるもので、カタカナで書きます。

色を使った表現

真っ白に 青ざめた 新緑の
なまり色 碧い(あおい)
色は、心情を表わすことも多いです。

行動を表す言葉

立ち上がる 投げつける
かけあがる にぎりしめる
それぞれ「立つ」「投げる」「走る」「にぎる」とはちがっていますね。

比喻を使った表現

風のように 氷のような
まるで海の中にいるような
～のように(ような)や、まるで～という書き方をします。

慣用句

首を長くして 頭をひねる
手を焼く 足が棒になる
言葉のもつ意味を覚えておくことも大切です。